

今に見る 千里山会の発会ご案内状

(田中博氏 昭和45年10月出状のもの)

編 集 部

同窓会へのおさそい

こないだ、「千二小学校の同窓生は、東京にどれ位おるやろ、一辺寄れるだけ集まって情報を集めてみよか・・・」てな事で、十月一日に田中の経営する京樽に集ってみたら、七人の同窓生の顔が揃い、まあ！ワイワイ、ガヤガヤ、えらい事でしたわ。みんな学校を離れて三十年前後、古い、なつかしい話ばかり。ほんまに皆さん千里山へ行ってみなはれ、えらい変わり様でっせ！ 学校も変わりましたなあ、昔の奉安殿のあった所には新しい鉄筋三階建ての校舎が出来、昔の運動場の真ん中には立派なプールが掘られ、昔の木造二棟の校舎は松葉杖ついてどうにか立ってはいりませんわ。

その当時非常階段の所で、中村のおばさんが、あの

長いヒモを引っ張って鳴らしていたなつかしいカラシランと始業を知らせるカネは今サイレンに、千里山の駅から学校までのタンボ道はアスファルト舗装され、北側の山の方は立派な公園、大学前の方へ行く別れ道の側は商店が軒を並べ、三十年の月日をあらためて考えさせられます・・・昔の事を書いていけばいくら紙面を費やしても足りません。そこで先日(の七人

9 宇野隆造・疋田敬一郎・藤田 田・12 福山博寿
14 三分一克美・田中(宇野)博・三笠洋一(数字は回生)

で名簿(註)らしいものを一応作成してみました。この名簿以外の人で知ってはる人があったらどんな事務局の方へ連絡しとくなはれ。千二小を卒業してるとないそんなんどうでもよろしで一年か二年通うたあの時の友人や先生の情報知りたいなあと思う人、あのちっちゃな小学校なつかしいと思う人、どんどん連絡おこなはれ、お待ちしとります。

大体十一月初旬位までに連絡くれはったら十一月下旬には第一回東京同窓会が出来るのやないかと思つてます。御協力たのんます。

■去る十月五日、糠澤敦子さん（南部敦子さん）が、交通事故でなくなりました。敦子さんにも事故の数日前に電話して、「是非出席したいわ」という御返事を戴いていましたのに残念な事です。
ここに謹んで御冥福を祈ります。

昭和四十五年十月

仮事務局

東京都中央区日本橋人形町二ノ一 安田生命ビル

株式会社 京 樽

取締役社長 田 中 博宛

（電話）六六九―二二二―（代）

千里第二小学校 同窓生の皆様へ

編集部より

先日、田中博さんと、電話でお話できました。

田中博さんは、会社の社長・会長を勇退後、大病に罹られ静養されてましたが、お元気になられて今春久

し振りに千里山を訪ね、母校と旧友に会えたことを喜んでおられました。

私共の千里山会は、この田中さんの手紙から始まったと申しても過言ではありません

文中発会は十一月の予定と書かれてますが、翌年の昭和四六年一月に二六名が参集し新宿で開催されました現在の千里山会名簿の物故者の冒頭に南部敦子さんを掲げている理由（わけ）もご理解いただけるかと思えます。また七人で作られた名簿をもとに平成六年復活後最初の名簿も京樽事務局で作られ、その後は二年置きに32古川（藤本）道子さんにより改訂されてきました。なお裏話になりますが、田中さんの発会案内文は、お手許にあったのではなく、ご本人も忘れておられて、千里山と千里山会のもを大切に残されておられる元世話人代表の飯島泰蔵さんが所持されておられたものを拝借し、田中さんのご了承をいただいて掲載することができました。ご両人に御礼申しあげます。

疋田・藤田・福山・三笠の各氏は故人になつておられ、彼岸此岸の七人の方々に心から感謝申しあげます。

（註 文中にある最初の名簿は創刊号二六頁を参照下さい）

（文責 柿崎）